

令和元年度 第1回 地方独立行政法人北九州市立病院機構評価委員会の開催結果について (概要)

- 1 **開催日時** 令和元年11月22日(金) 16:00～17:10
- 2 **開催場所** 総合保健福祉センター(アシスト21)視聴覚室
- 3 **出席者** 柳井委員長、石橋委員、小松委員、下河邊委員、田中委員、松木委員、吉田委員、渡邊委員 ※全委員出席
- 4 **内容**
- (1) 委員長の選任について
 - (2) 報告事項
 - ・北九州市立病院機構に関する報告
 - ・北九州市立病院機構令和元年度計画
 - (3) 議題
 - ・業務実績評価の基本方針(案)及び年度業務実績評価実施要領(案)について

5 会議要旨

- (1) 委員長の選任について
 - ・委員互選により柳井委員が委員長へ選任された。
- (2) 報告事項について
 - ・病院機構より、病院機構に関する報告及び年度計画の説明がなされた。
- (3) 議題
 - ・保健福祉局より、業務実績評価の基本方針(案)及び年度業務実績評価実施要領(案)について説明を行った。質疑応答の後、了承された。

○田中委員(地方独立行政法人下関市立市民病院 理事長)

機構が行った自己評価に対し、市が評価することになっているが、当評価委員会の評価に係る関連性を教えて欲しい。

(事務局)平成29年度までは、評価委員会のほうで評価を行う仕組みだったが、法改正により、平成30年度からは市で評価を行うことになっている。市が行った評価に対して、評価委員会に意見を伺うことになっているので、法律に従った形式を取らせていただこうと考えている。

○柳井委員長（北九州市立大学 副学長）

評価結果報告書について、市の評価は「法人の評価と異なる場合は、より詳細な評価理由を明記する」と記載されているが、評価は市が先で、それをベースにして法人自己評価という説明だったのだが、以上の説明だと逆になるのではないか。

（事務局）法人で自己評価を行い、それを6月末までに提出いただき、その後市で評価をする。法人から出てくる資料は、小項目の実績・状況中ほどの「実績及び法人自己評価」まで記載され、市で右側を記載させていただく。

来年度の評価委員会では、市の評価まで記載した状態でご説明させていただき、その内容について評価委員会で議論し、ご意見を頂く。

いただいたご意見に基づいて、報告書を修正するので、それに対して改めて評価委員会の意見という形で頂戴することになるかと考えている。

○柳井委員長（北九州市立大学 副学長）

法人自己評価の結果を踏まえて、市がそれを評価するという形か。それとも先に評価委員会がベースを作るということか。

（事務局）まず法人が自己評価を行い、それに基づき市が評価する。

○田中委員（地方独立行政法人下関市立市民病院 理事長）

市が行う評価の評価委員会というのは、当評価委員会と別に作られているのか。

（事務局）市の評価は、事務方で作成し、それを当評価委員会で審議していただく。

（阿高参事）病院機構のやっていたことに対する評価は、法律上、市が行うことになっている。まず市が法人の自己評価を見た上で、市が、評価報告書の原案を作るというイメージである。

それを評価委員会に見ていただき、そこで出された意見を踏まえて、市の評価を修正させていただいて、さらにその後、議会にも報告し、北九州市の最終的な評価が確定するということである。

○柳井委員長（北九州市立大学 副学長）

評価委員会で議論するところが一番ポイントであり、重要である。

○小松委員（社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会 理事長）

市で評価を作るというのは、保健福祉局で作るということか。

（阿高参事）事務的な仕事は保健福祉局で行う。

○下河邊委員（北九州市医師会 会長）

独法化して、評価が何かというのは、問題ばかりを挙げて、的を絞っていないから言いよ

うがない。もう少し的を絞らないといけないのではないか。現在、医師会が地域医療構想を一生懸命取り組んでいるが、市民に分かりやすい医療機関の機能分化をどう仕分けるかが必要である。

○柳井委員長（北九州市立大学 副学長）

市立病院がどういったところに軸足を置くかというのは、周りの病院にもかなり影響が出てくると思われる。そのところをうまくアピールできるような計画というものをぜひ策定していただきたいと思う。

○渡邊委員（渡邊・城戸・馬場法律事務所 弁護士）

市が評価をする際に、法人の自己評価で出てくる報告書のみを資料として評価するのか、それとも、例えばアンケート等に基づいて何か自己評価されている場合に、その原資料というものも精査して評価するのか。その場合に、評価委員会もその資料を見ることが、実際に意見を述べる上でできるのかというところが、まだイメージが湧いていないのだが、どういう手順になりそうなのか。

（阿高参事）イメージとしては、評価委員会の皆様にもご議論いただきながら、中期目標を作り、これを市が独法化された法人に指し示した。それを基に、法人で、中期計画、単年度の計画を作成していく。細かい評価の物差し、手法をどうするのかは、我々の宿題として、今から評価の際までに考えていかなければいけない。

○松木委員（松木公認会計士税理士事務所 公認会計士）

評価に優先順位を付けなくてはいけないというところで、全体的な優先順位と、現場サイドでの優先順位もある。現場サイドで付けられている優先順位と、こちらで評価する優先順位とで、関係をきちんと分かるように提示していただいた上で、評価委員会としての優先順位を含めた上で評価させていただきたい。

それから、財務上の話だが、もともと病床稼働率を、数字上では結構厳しめにした上での計画を作っていた。その計画上の稼働率、実際のところ、すごく頑張っていることも把握しているが、どのように上げていくかというところは、本当にとっても大切なのではないかと考えている。それをベースに経費も作っていると思うが、今回のダヴィンチを導入されたが、どこまで売上に貢献しているかというところも、本当のところは知りたい。実はとても難しいものだということも把握しているが、導入された効果がどこまで分かるか教えて欲しい。

（中西理事長）ダヴィンチは非常に高額な機械である。北九州の東部地区で1台もなく、現在は西部地区の医療機関に紹介している。通常の稼働であれば償還までに8年位かかるが、現状の予測では恐らく5年目位には償還できると予測している。

ダヴィンチの手腕に関しては一流のドクターを招聘することができ、それに加えて、そ

の機械を使いたい若い医師の医療センターで仕事したいという声も増えてきている。その波及効果を含めると、金額だけではなく、病院としてのブランド、あるいはより優れたモチベーションの高い医師を集められるという効果があると、現時点では予測している。

(4) その他

(事務局)

今年度はこの1回限りであるが、来年度は、令和元年度の業務実績評価についてご審議いただくこととなる。7月上旬・下旬を目途に2回程度の開催を見込んでいる。

開催日の日程調整については、改めてご連絡させていただく。